

第1章 芦別市食育推進計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

芦別市は、北海道のほぼ中央に位置し、広大な山林や空知川が流れ、豊かな自然に恵まれ、おいしい農作物が豊富にある一方で、私たちの食生活は大きく変化しています。

食べたいものを、いつでも、どこでも食べられる便利な社会になりましたが、朝食の欠食や、不規則な食事による生活習慣病の増加などが問題になっています。

このような状況の中、国は、平成17年6月に食育基本法を制定し、平成18年3月に食育基本計画を策定し、本市においても、市民一人ひとりが、生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができるよう、平成20年3月に芦別市食育推進計画を策定しました。

平成25年度からスタートした第2次芦別市食育推進計画は平成29年度で計画期間の5年が経過し、この間、計画に基づき、「朝ごはんをしっかりと食べましょう」、「バランスのとれた食生活で健康づくりをしましょう」、「みんなで食卓を囲みましょう」、「食育への関心を高めましょう」、「芦別市の食文化を育みましょう」の5つの推進目標に沿って、家庭、保育所、幼稚園、学校、地域、生産者、事業者、行政などが連携したさまざまな食育に関する活動を展開してきました。

この度、国の「第3次食育推進基本計画」及び、北海道の「どさんこ食育推進プラン～北海道食育推進計画（第3次）」の策定の趣旨をふまえ、本市において更なる食育を推進するため、「第3次芦別市食育推進計画」を策定します。

2 計画の位置付け

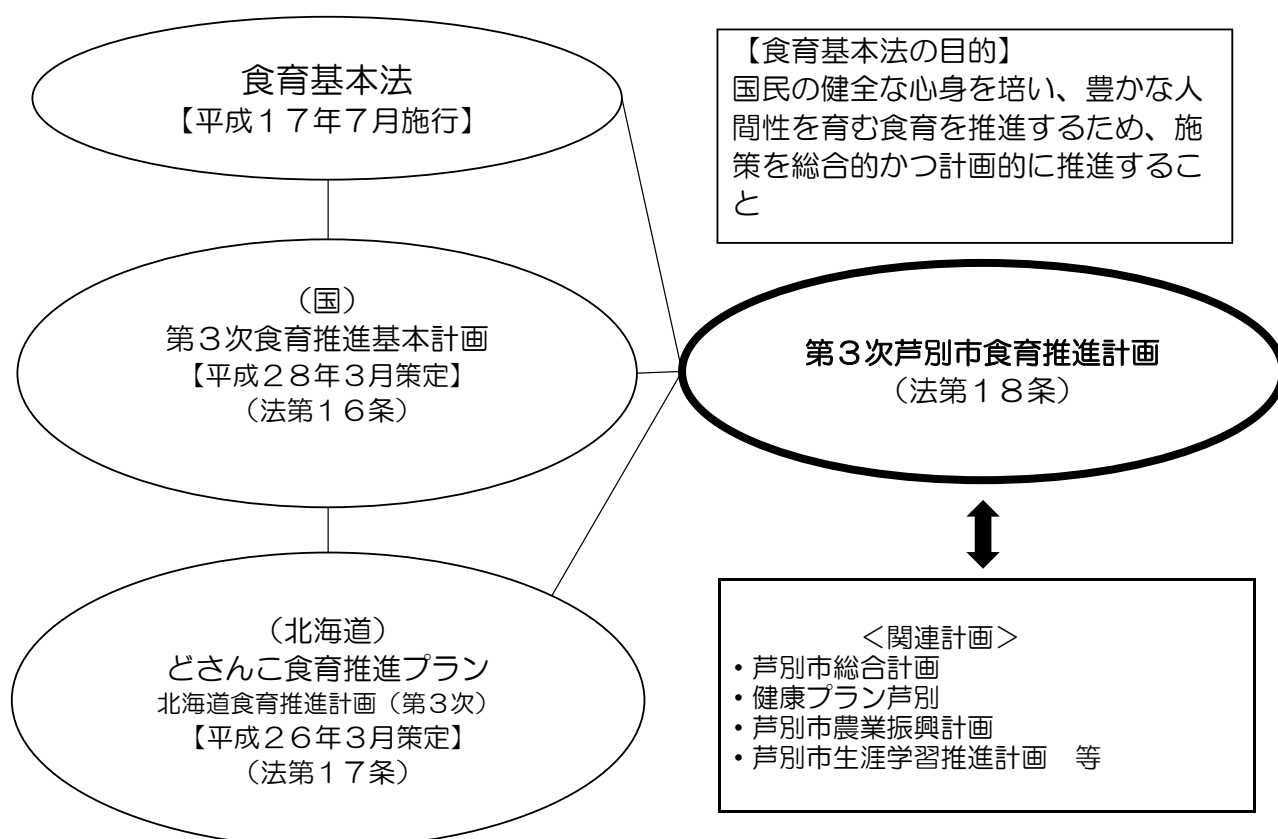
本食育推進計画は、食育基本法第18条第1項に基づく市町村食育推進計画として位置付けます。

この計画は、一人ひとりの健全な食生活の実践を通して豊かな人間性を育むことを目的とする食育を推進するための基本的な考え方を明示して、本市における関連計画と整合を図り、食育を具体的に推進するための総合的な指針として策定しました。

【食育基本法】（抜すい）

（市町村食育推進計画）

第18条 市町村は、食育推進基本計画（都道府県食育推進計画が作成されているときは、食育推進基本計画及び都道府県食育推進計画）を基本として、当該市町村の区域内における食育の推進に関する施策についての計画（市町村食育推進計画）を作成するように努めなければならない。



3 計画の期間

この計画の期間は、平成30年度から令和5年度までの6年間とします。

社会経済情勢の変化などによって、計画の変更が必要になった場合には、芦別市食育推進会議の意見を聴いて見直すこととします。

4 第2次計画の主な取り組み状況と達成状況

(1) 第2次計画の取り組みについて

市民一人ひとりが、健康で豊かな生活を送る上での原点が日常の食生活であることを再認識し、また、食に関する知識と食を選択する力を習得して、自ら健全な食生活や食習慣を実践していく必要があります。

第1次計画では、食に関する知識や食生活の大切さを理解しているが、家庭での実践につながっていないという課題を受け、第2次計画では、体験型の学習を各ライフステージで実施しました。また、バランスのとれた食事をすべての年代にむけて知っていただけるよう、芦別市食育推進会議と芦別地区栄養士会の協力のもと食育に関するリーフレットを作成・配布するとともに、各種食育の取り組みでの資料として使用するなど市内において幅広く使われています。

食育に関する取り組みでは、家族や友人、地域や異世代との交流も増え、食に関心を持ち、実践してもらえる機会の充実を図りました。

市内で、食育が市民運動となるよう、家庭を中心に、保育所、幼稚園、学校、地域、生産者、事業者、行政などが相互に協力・補完し合い、豊かな人間性を育むことを目指して推進してきました。

(2) 第2次計画の目標数値と達成状況

食育を推進するための目標値を設定し、平成28年度に食育に関するアンケート調査を実施し、客観的に目標の達成度や現状の把握を行ってきました。

重点目標に関わる指標の数値は、達成している項目はありますが、引き続き、食育の取り組みを進めていく必要があります。

達成度の判定	◎	目標値を達成した場合
	○	達成していないが目標値に近づいた場合
	△	平成23年度より下回った場合

目標	項目	調査対象者	平成23年度	平成28年度	目標値	評価	
健康で豊かな食生活の実践	朝食を食べる人の増加	乳幼児	98.7%	97.5%	100%に近づける	△	
		小学生	97.1%	98.0%		○	
		中学生	94.3%	94.2%		△	
		高校生	90.0%	82.6%		△	
		小・中保護者	96.4%	89.8%		△	
	バランスのとれた食生活をする人の増加	乳幼児保護者	40.0%	65.0%	60%以上	◎	
		小学生	45.6%	77.0%		◎	
		中学生	33.0%	76.7%		◎	
		高校生	27.9%	73.9%		◎	
		小・中保護者	38.1%	72.3%		◎	
みんなであつながら楽しい食育	朝食や夕食を家族などと一緒に食べる人の増加	朝食	乳幼児	94.8%	96.1%	80%以上	◎
			小学生	79.4%	81.0%		◎
			中学生	59.4%	66.3%		○
			高校生	53.6%	54.0%		○
			小・中保護者	81.8%	77.0%		△
	夕食	乳幼児	99.6%	97.0%	95%以上	◎	
		小学生	98.5%	95.0%		◎	
		中学生	90.6%	74.4%		△	
		高校生	89.3%	82.7%		△	
		小・中保護者	93.6%	92.6%		△	
伝え合おう芦別の味	地場産品や特産品を食べる人の増加	乳幼児保護者	87.4%	77.9%	90%以上	△	
		小学生	90.2%	85.0%		△	
		中学生	83.1%	84.8%		○	
		高校生	73.6%	65.2%		△	
		小・中保護者	89.4%	81.2%		△	

【まとめ】

第5次芦別市総合計画の基本計画の中で推進すべき施策として「食育の推進」が位置付けられており、引き続き、市民一人ひとりの健全な食生活の実践を通して豊かな人間性を育むことを目指し、家庭を中心に、行政、保育所、幼稚園、学校、関係団体、地域全体が連携・協力しながら食育を推進していく必要があります。

5 芦別市の現状及び取り組みの方向性

(1) 芦別市の現状

①健康寿命

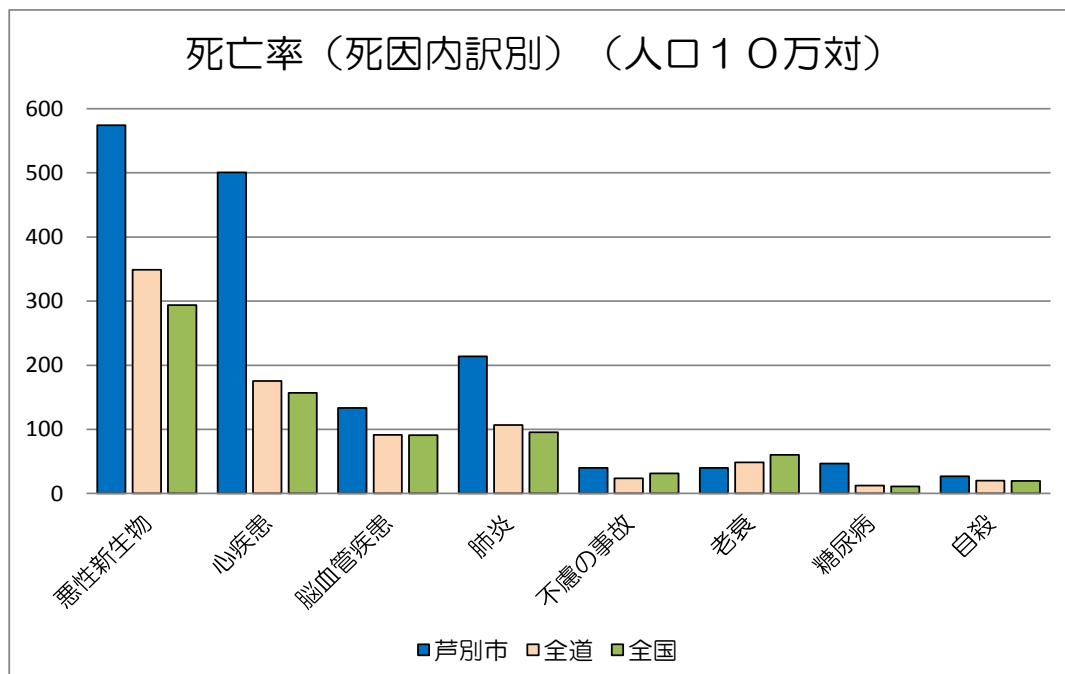
本市の健康寿命は、全国及び北海道と比較すると男女ともに長くなっています。

平成22年	全国	北海道	芦別市
男性	70.4歳	70.0歳	75.1歳
女性	73.6歳	73.2歳	82.3歳

北海道「すこやか北海道21」

②主な死因

本市の死亡率で最も高いのは悪性新生物（がん）で次に心疾患が多くみられました。高齢者の割合が高いことも影響してはいますが、年齢を調整した死亡比でも、心疾患は高い傾向となっており、生活習慣が関係して発症する場合もあると考えられます。



平成26年北海道保健統計年報

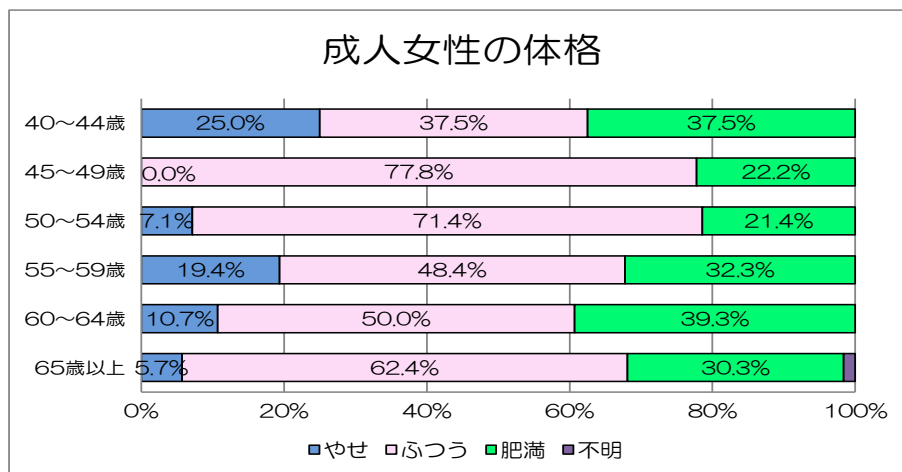
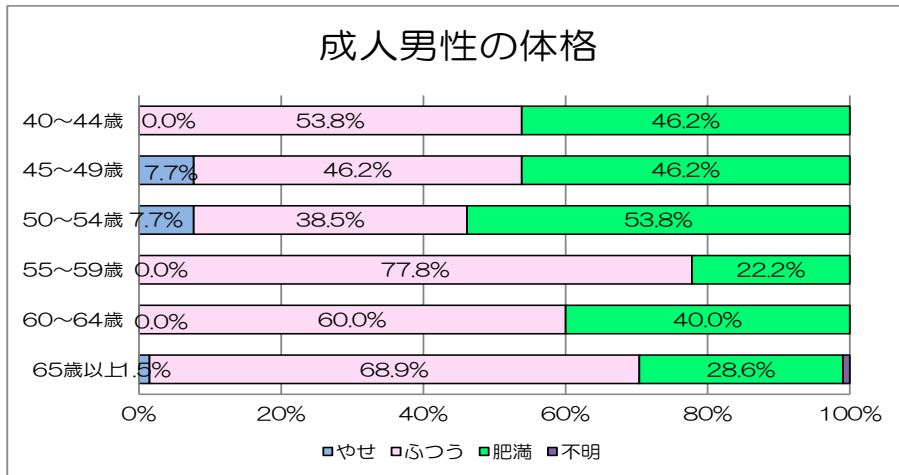
(2) 体格

《成人》

●特定健診結果の状況

男女の体格を比較すると、やや男性のほうが肥満の割合が高い傾向となっています。

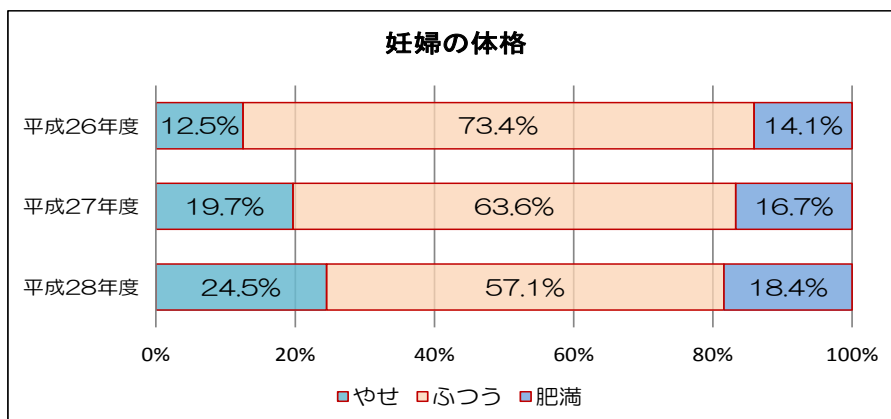
全体の平均では、約35%の方が肥満となっています。



平成28年度芦別市国民健康保険特定健康診査結果

《妊婦》

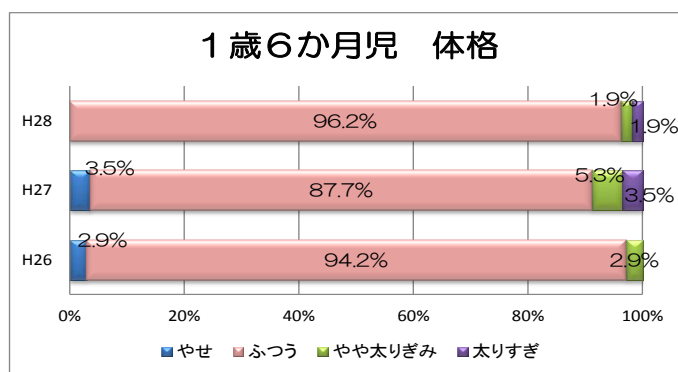
平成26年度から、毎年やせと肥満が増加し、適正体重のふつうが減少してきています。



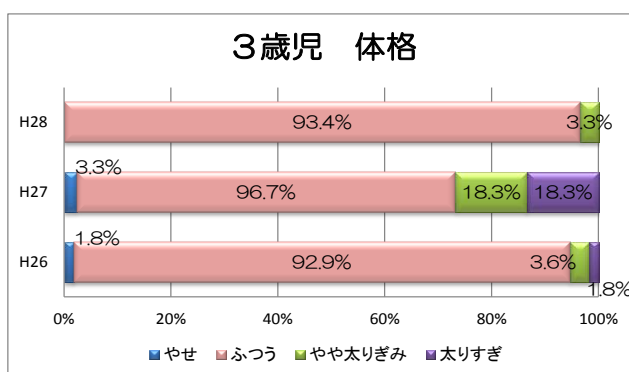
妊娠届出アンケート

《幼児》

幼児のふつうは、1歳6か月児89.2%、3歳児92.4%となっています。

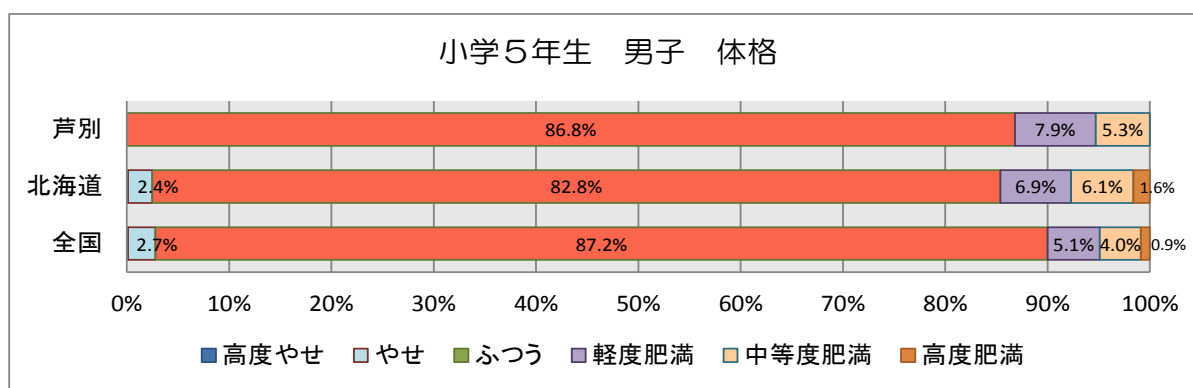


1歳6か月児健康診査問診票

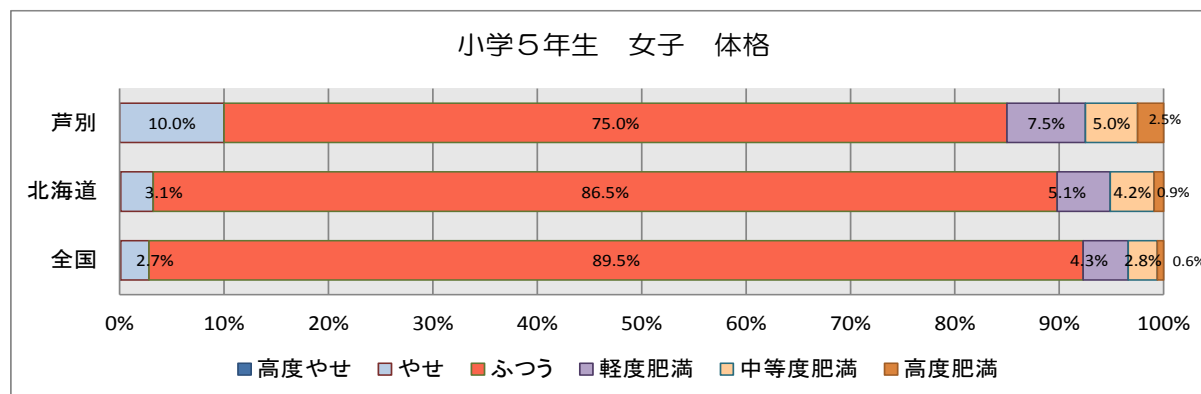


3歳児健康診査問診票

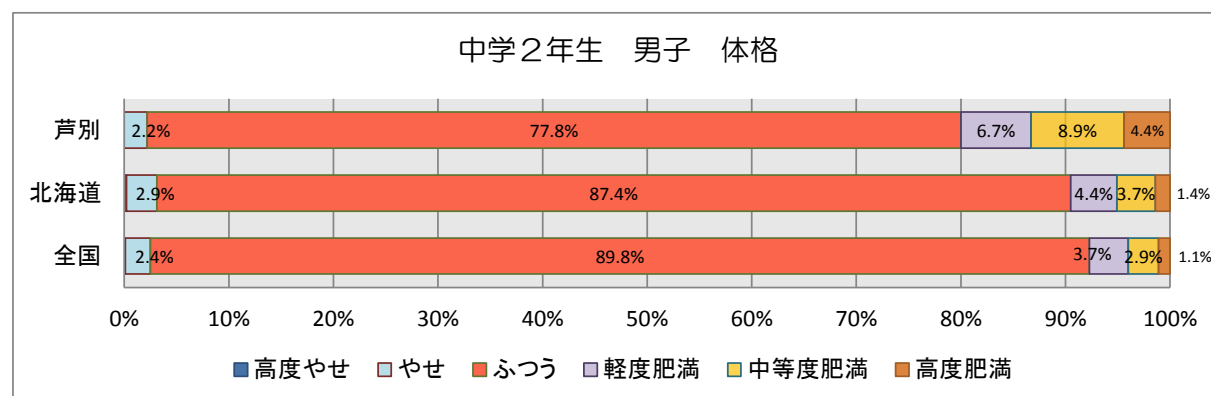
《小・中学生》



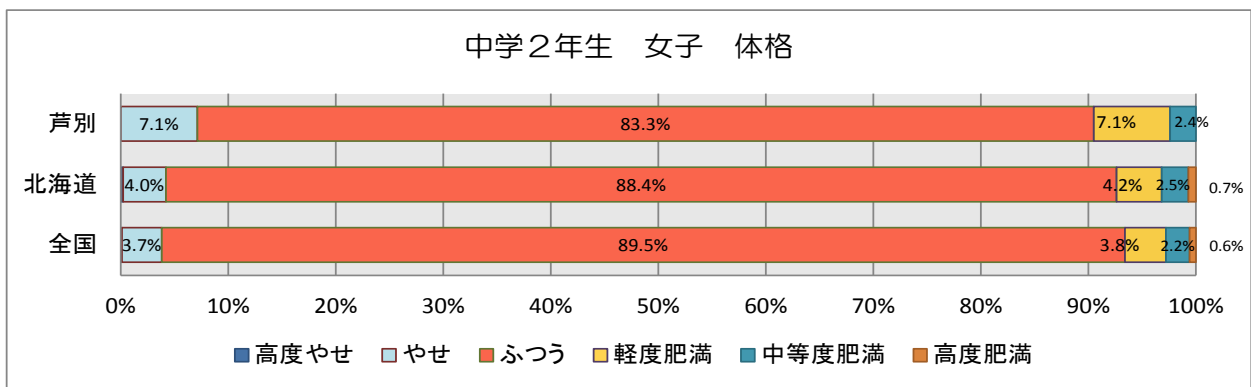
平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査



平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査

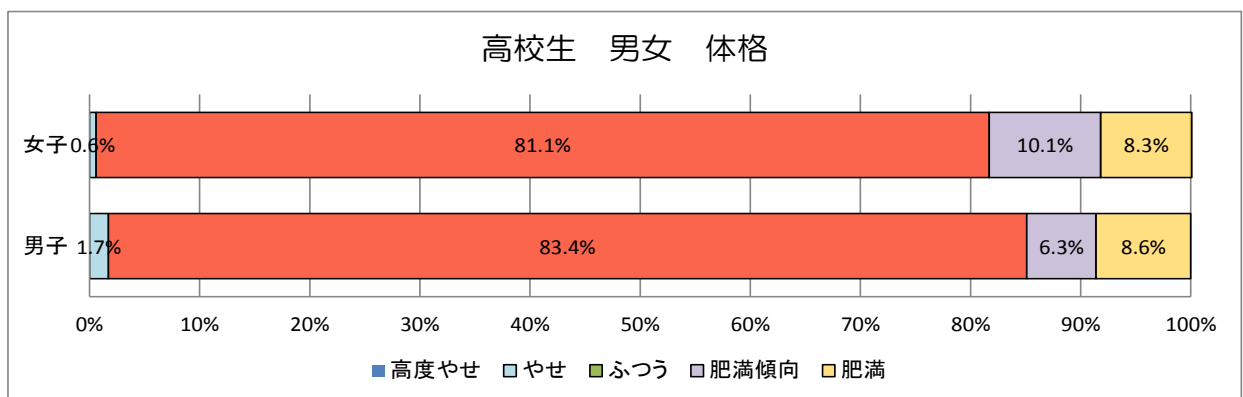


平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査

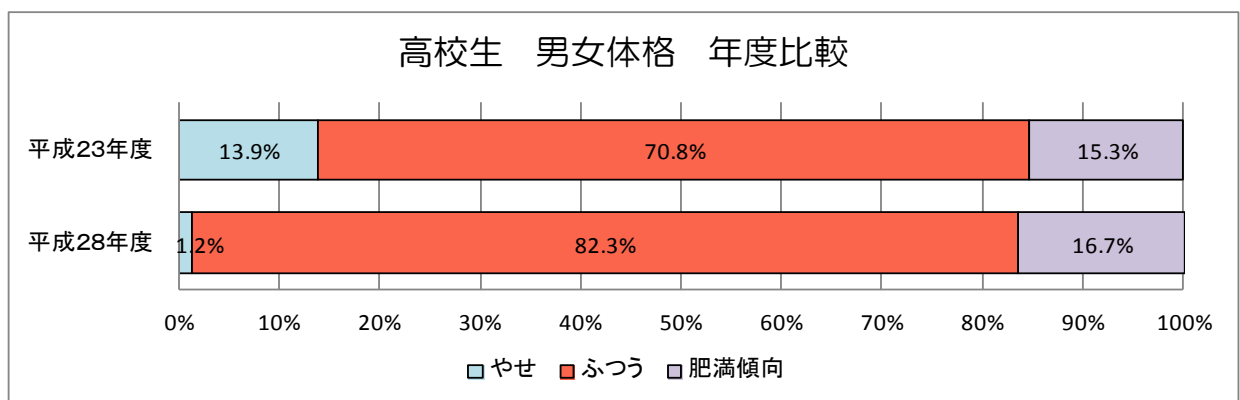


平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査

《高校生》



平成28年度生徒定期健康診断結果



平成28年度生徒定期健康診断結果

女子は小学5年生、中学2年生とも北海道、全国と比較して「やせ」が多く、男子は小学5年生、中学2年生とも全国と比較して「肥満傾向」が多くみられ、全体として男子も女子も肥満傾向がうかがえます。

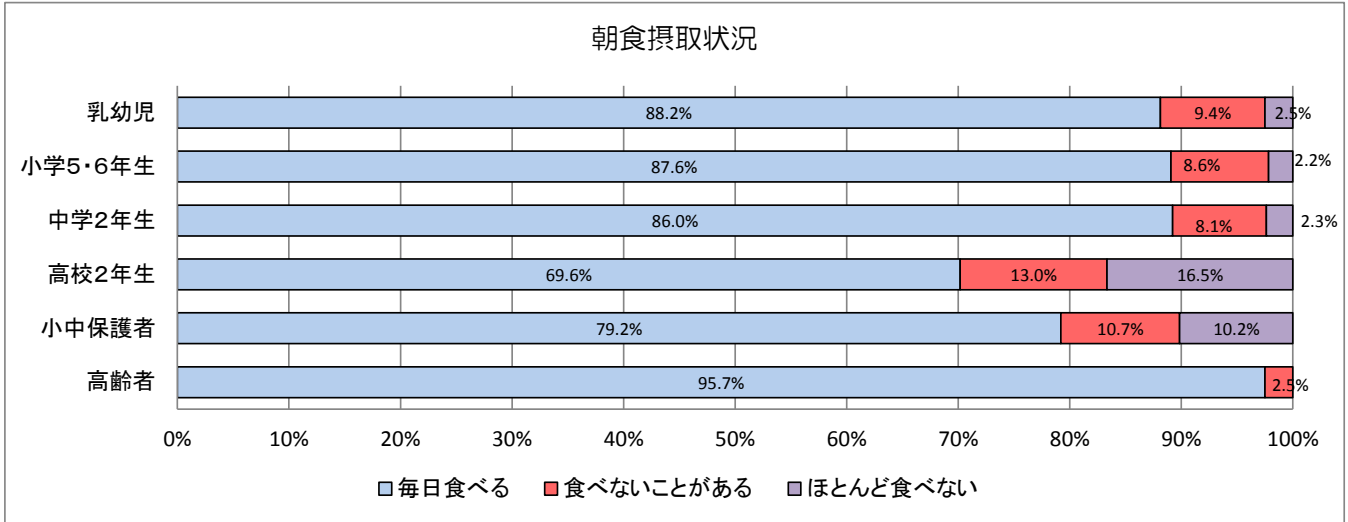
また、高校生の体格については、平成23年度と比べると、「やせ」が減少し、「肥満」傾向が少し増えています。

成人は特定健診を受診した約3割の方が肥満、2割がメタボリックシンドロームに該当しています。また、検査結果においても、生活習慣の改善が必要な方が、約半数いることから、若いころから適切な食生活や生活習慣を身につけ生活習慣病を予防し、健康な心身をつくる必要があります。

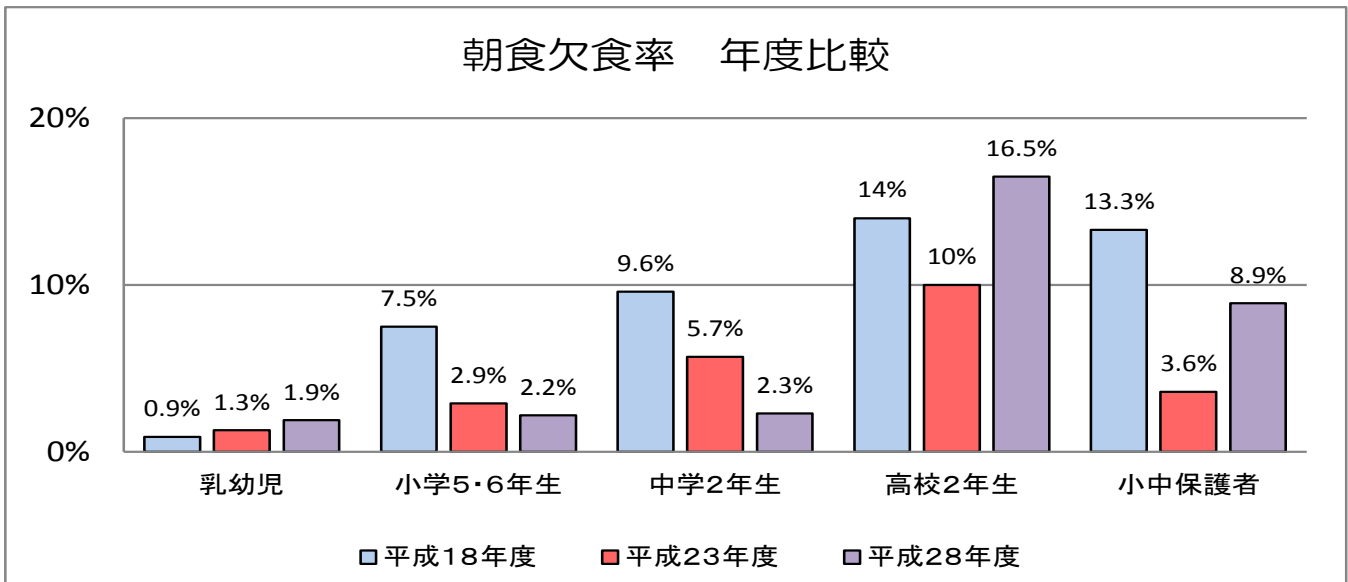
(3) 食の状況

※(3) 食の状況及び(4)食と農の状況に関するデータは、平成28年度に実施した食育に関するアンケート調査から抜粋しています。アンケート調査の詳細は参考資料43ページに掲載しています。

① 朝食の状況

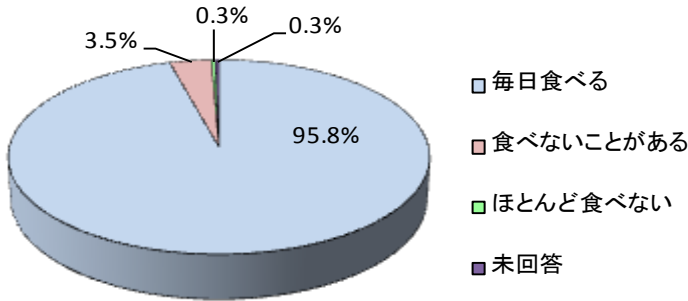


● 朝食欠食率の推移 (※高齢者は平成28年度より調査を行ったためデータなし)



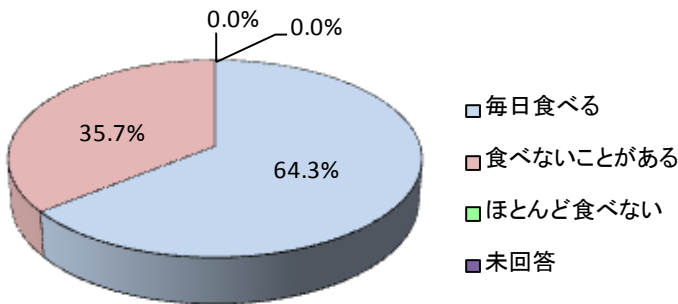
●親と子の朝食摂取の関係性

・保護者が**毎日朝食を食べる**場合子どもは？



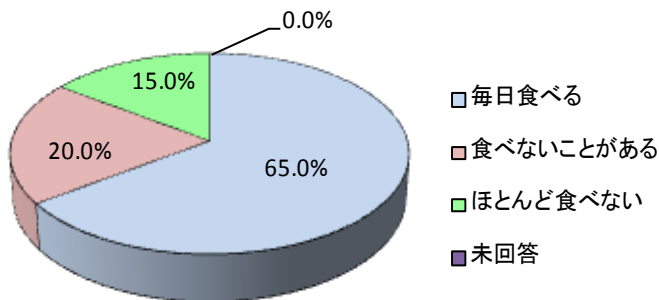
保護者が朝食を**毎日食べる**場合は子どもも**毎日食べる**割合が高かった。

・保護者が**朝食を食べないことがある**場合、子どもは？



保護者が朝食を**食べないことがある**場合は子どもも**食べないことがある**割合が高かった。

・保護者が**朝食をほとんど食べない**場合、子どもは？

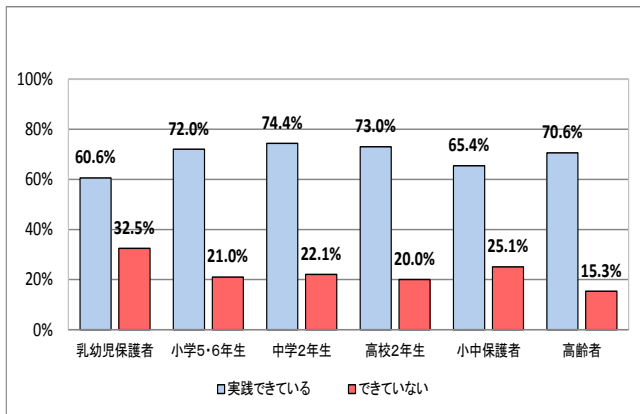


保護者が朝食を**ほとんど食べない**場合は子どもも**ほとんど食べない、食べないことがある**割合が高かった。

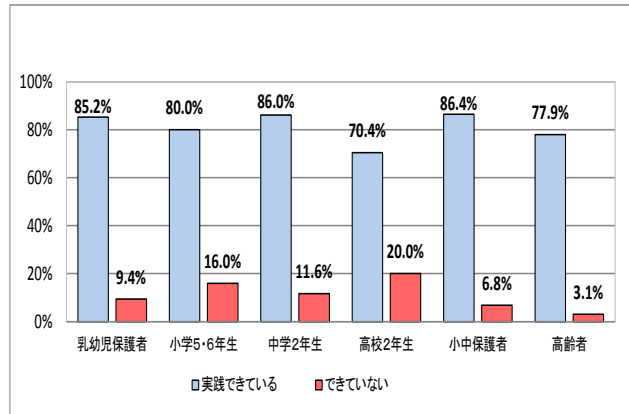
朝食の欠食は全ての年代において見られていました。特に、高校2年生と小中保護者で食べない人が多い傾向にあります。その他の年代でも乳幼児、小学5・6年生、中学2年生においては約1割の人が朝食を欠食しています。高齢者においてはほとんど食べない人はみられませんでした。また、子どもの朝食摂取は保護者の習慣に影響を受けやすいことがわかりました。

② 食生活の実践状況

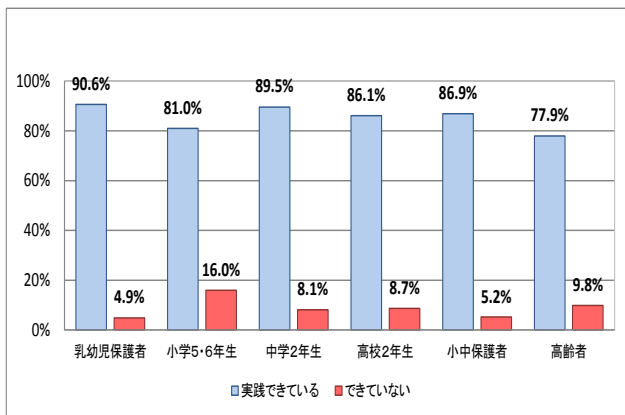
● ゆっくりよくかむ



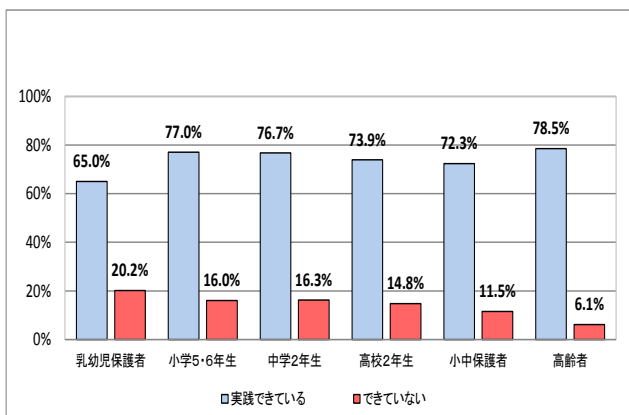
● 間食を食べ過ぎない



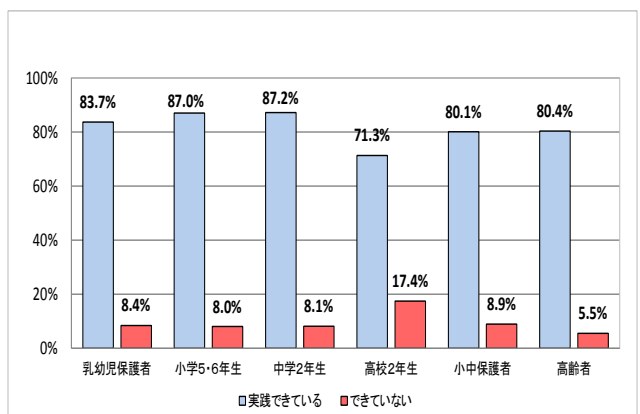
● 野菜の摂取



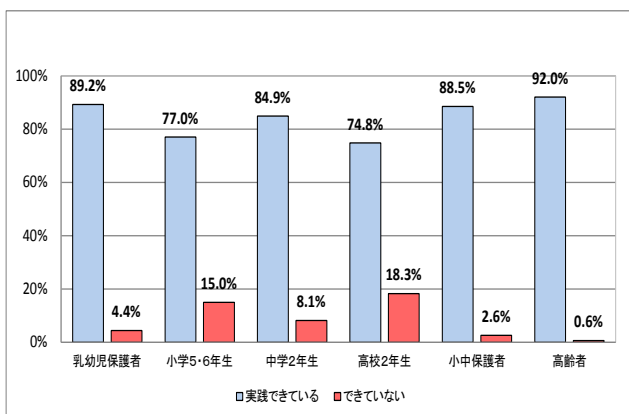
● バランスのよい食事



● 適塩を守る



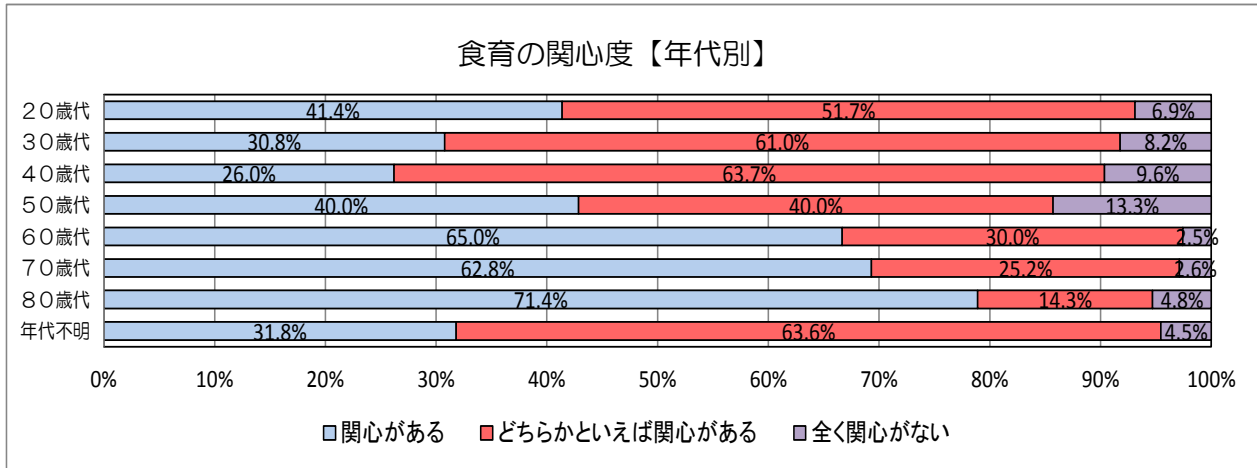
● 食品ロス削減



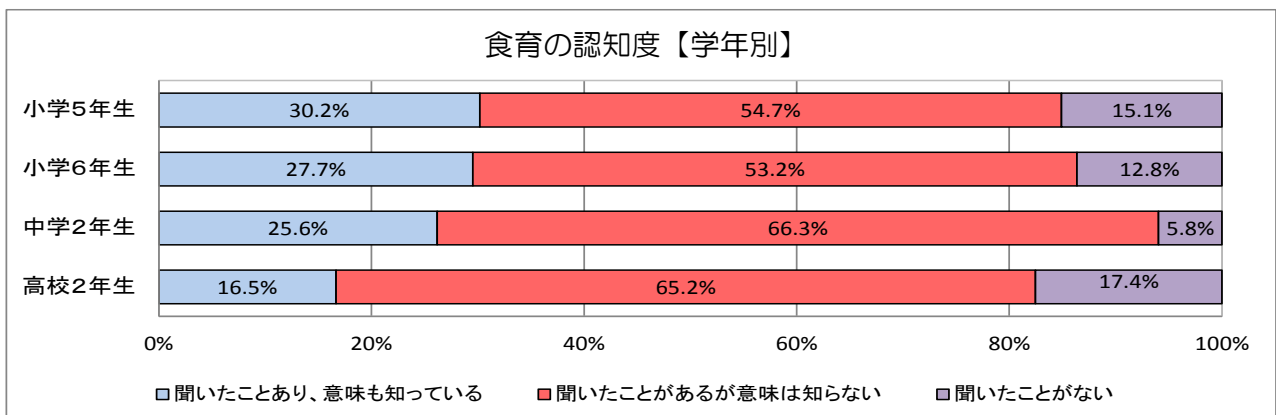
どの年代も実践できている割合は高くなっていました。食育に関するアンケート調査では、実践できない理由もあわせて聞きましたが、どの年代も「時間がない」「忙しい」等の時間的余裕がないことや「癖」「つい」「習慣がない」等の身につけている習慣によるものが多く見られました。

③ 食育の関心度

●保護者・高齢者



●小学生・中学生・高校生

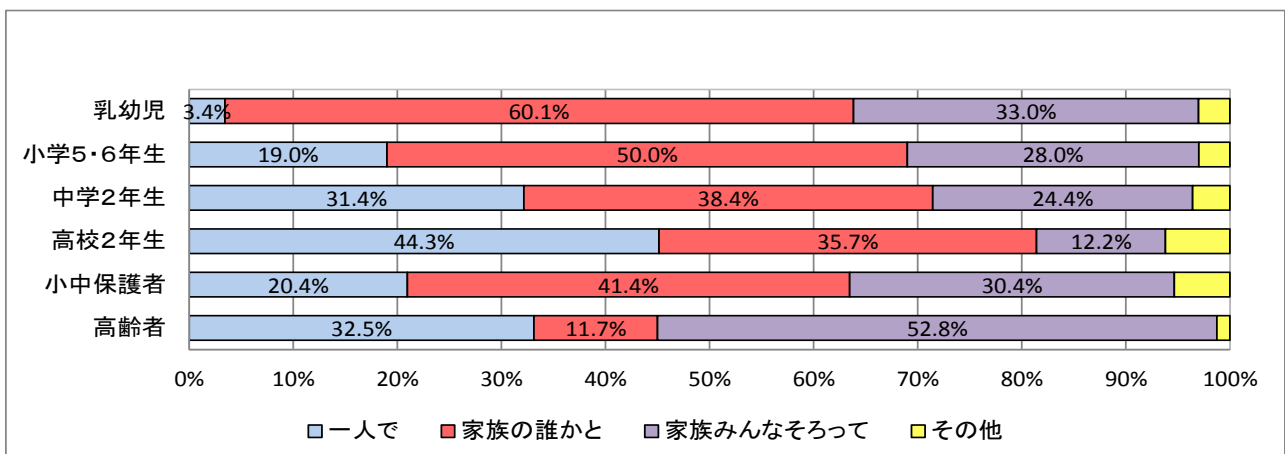


保護者と高齢者の食育の関心度は9割を超えており関心度は高いと言えます。20～40歳代は「どちらかといえば関心がある」の割合が高く、50～80歳代は「関心がある」の割合が高かったです。

子どもは「食育という言葉聞いたことがある」の割合は8割を超えていました。小学校から食に関する授業を実施していることから「食育」という言葉を聞く機会がありますが、食育の意

④ 共食の状況

●朝食の共食

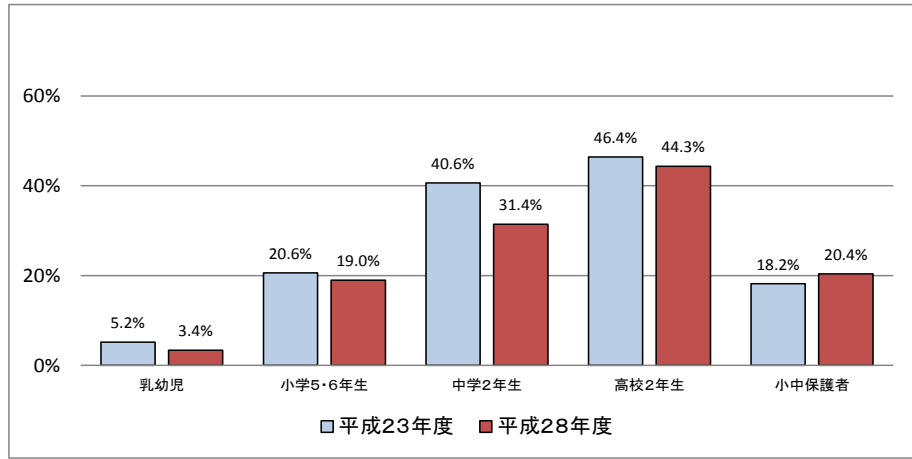


●朝食孤食率

<高齢者内訳>

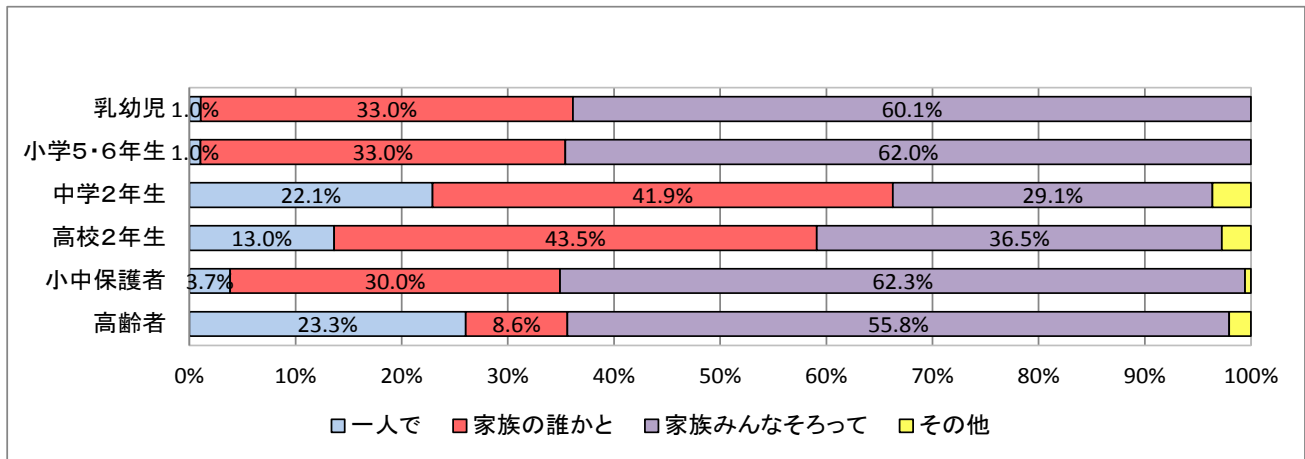
一人で食べる回答者

一人暮らし	64.2%
夫婦のみ	13.2%
その他	15.1%



※高齢者は平成28年度より調査を行ったためデータなし

●夕食の共食

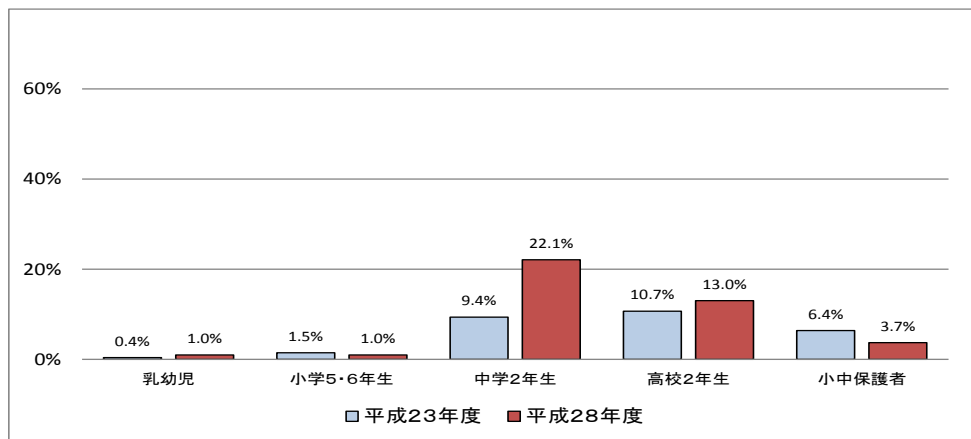


●夕食孤食率

<高齢者内訳>

一人で食べる回答者

一人暮らし	73.7%
夫婦のみ	10.5%
その他	10.5%

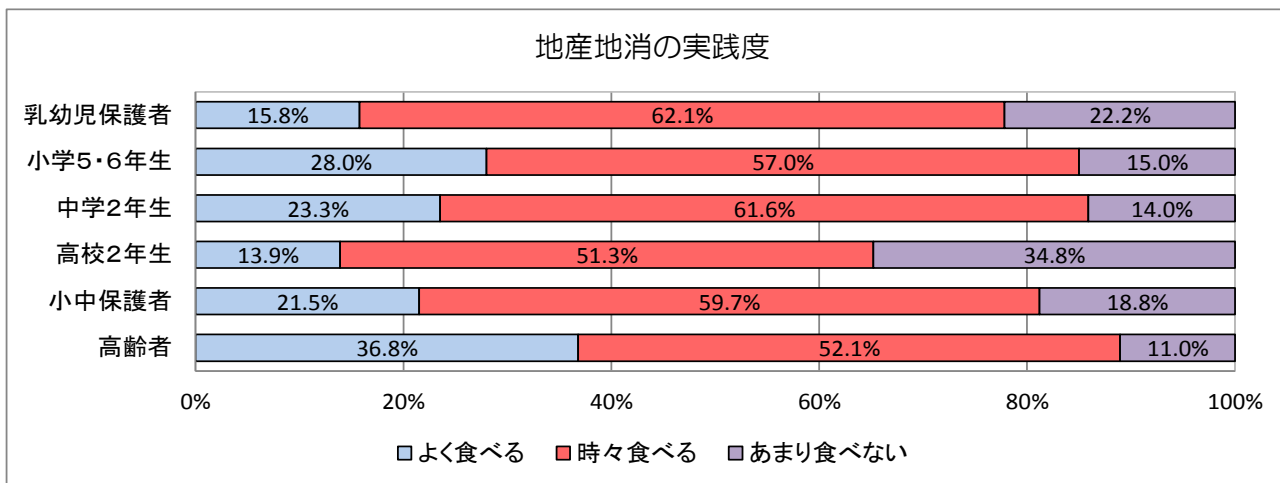
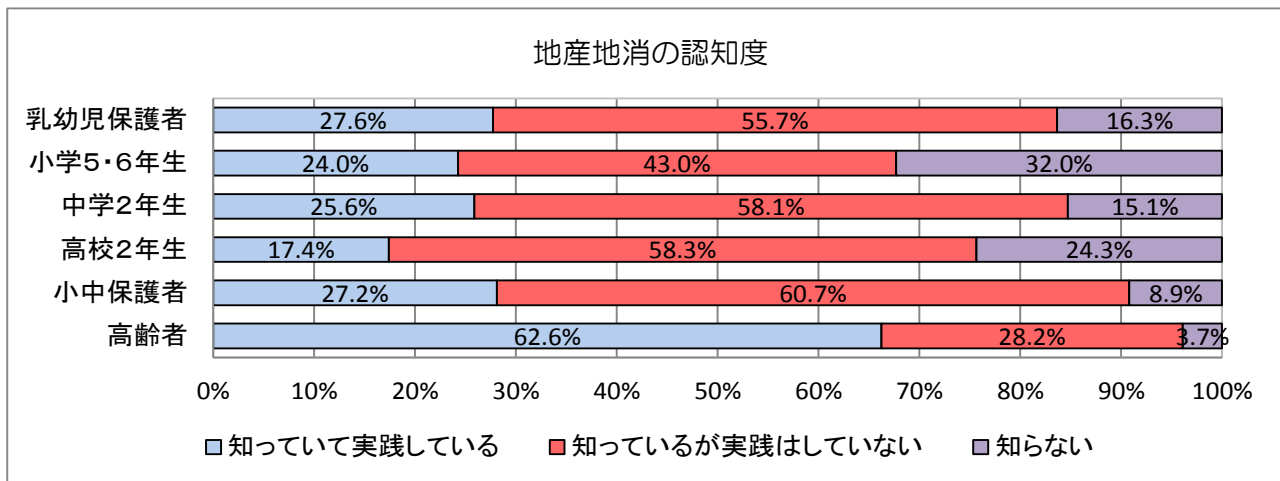
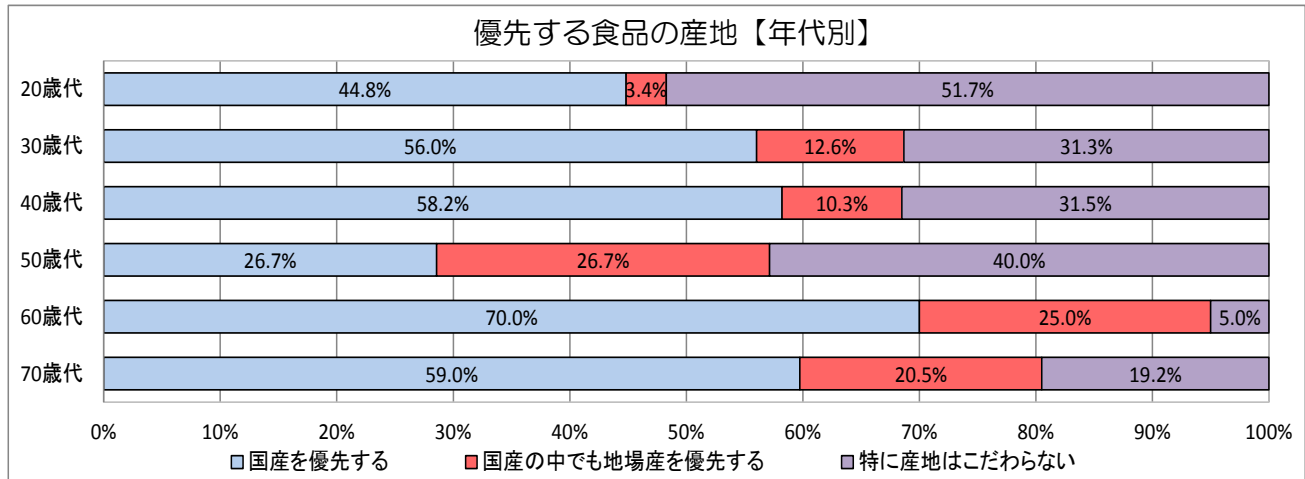


※高齢者は平成28年度より調査を行ったためデータなし

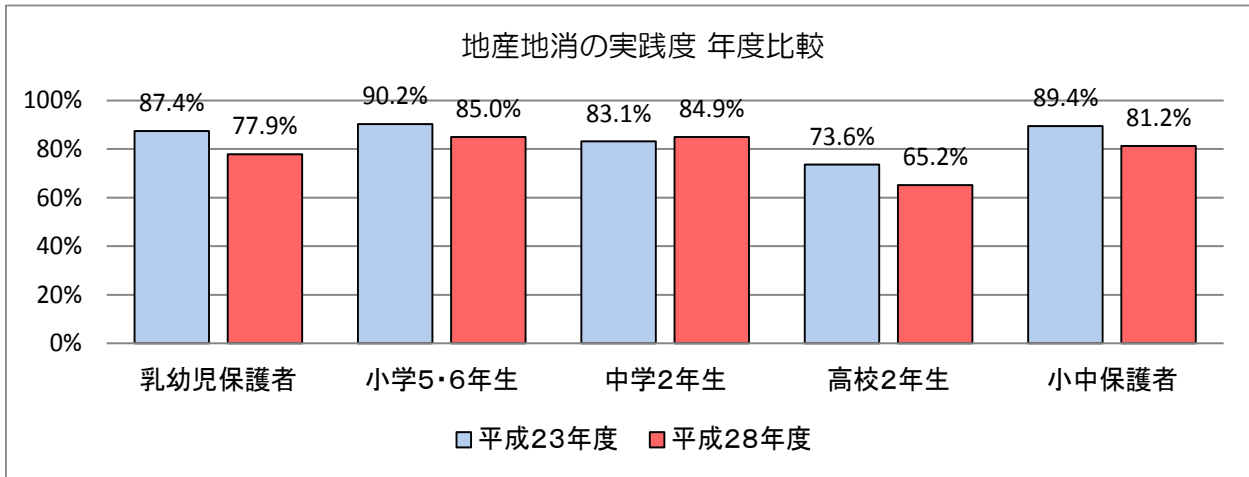
朝食、夕食ともに一人で食べる「孤食」は中学2年生、高校2年生、高齢者が多かったです。中学生や高校生は部活、習い事等で帰宅時間が遅くなる場合も多く、生活時間がずれてしまうという状況が考えられます。また、高齢者の孤食のうち一人暮らしは6～7割で残りの3～4割は一人暮らしではない高齢者も孤食になっていることがわかりました。

(4) 食と農の状況

① 地産地消



●平成23年度調査結果との比較



地産地消を知っているが実践していない割合は5割となりましたが、地場産品や特産品を食べる割合は平均して8割となっています。また、食材を購入する際に国産や地場産を優先する割合は7割程度となりました。実践をしているが地産地消と認識していない場合も考えられます。

地場産品や郷土料理を食べない理由では、地場産品や郷土料理を知らない、価格が高い、売っているお店を知らないが多くみられました。

芦別の郷土料理ガタタンとは？



ボリューム満点のトロみのついたスープです。白菜、人参、いかげそ、豚肉、山菜、だんご、鶏卵など10種類以上の具材がたっぷり入った鶏ガラスープや豚骨スープに片栗粉でトロみをつけたもの。

戦後、旧満州から芦別に引き揚げてきた故 村井豊後亮(むらいぶんごのすけ)さんが自分の中華料理店・幸楽で出したのが始まりで、中国東北部の家庭料理「疙瘩湯(ガータタン)」をヒントに創作した郷土料理です。

市内飲食店ではガタタンの創作料理も食べられます。

地場産品を購入できる主なお店を紹介します

●竹部農産直売所



●ラルズマート芦別店



●ナガドイ米穀店



芦別産のお米を取り扱っているお店や飲食店にのぼりを立てています！



販売店用



飲食店用



飲食店用 ミニのぼり

のぼり作成提供：芦別市きらきらぼし生産組合

<道の駅エリア>

●かあちゃん市

●つばさ農園



(道の駅：スタープラザ芦別内)

●ピッツァ芦別



●売店 (大橋さくらんぼ園：酢、ジャム、中内養蜂：はちみつ各種、ソラチ：タレ各種、ナガドイ米穀店：芦別米)



●ときわダイヤモンド会

●末永農場



(5) 第3次計画の課題と取り組みの方向性

食育を市民運動として根付かせるには、市民一人ひとりが関心を持ち、ライフステージに合った取り組みを実践していく必要があります。また、食育とは何かということも知った上で、家族みんなが関心を高めて実践していけるように全ての世代にむけた周知が求められます。

<課題>

現代は家庭環境や生活様式が多種多様となっているため、それぞれの家庭環境に応じてよりよい健康的な食習慣を育ていけるよう正しい知識や情報の提供及び実践方法の普及啓発を行っていく必要があります。

健康と食の現状からは、肥満傾向の増加がみられたり、朝食の欠食や孤食などがみられます。生活習慣をつくっている途中の子どもや次世代に食育をつないでいく担い手である若い世代には、朝食の大切さ、必要さを理解してもらい、習慣的な朝食摂取につなげ、適切な食習慣を営み、心身共に健康な生活を目指すことが必要です。また、共食の必要性を理解してもらうことが重要であるのと同時に、毎月19日の食育の日はなるべく一緒に食べるようにするなど家庭で取り組みやすい仕組みづくりが必要です。

地産地消の推進としては、地域でとれた食材から自然の恵みを知り、感謝の気持ちや大切に作る心、郷土愛を育むことが大切であり、更には健全な食生活を送るために、安心安全な食品を選ぶ力を身につけることが重要です。地場産品や郷土料理を提供しているお店を知らないという声が多かったことから、市民に広く周知していく必要があります。

<方向性>

これらの状況と国や道の食育推進計画を踏まえ、芦別市の第3次食育推進計画では、市民一人ひとりが、健全な食生活を実践する基本的な力を身につけ、健康な心と体、豊かな人間性を育めるよう、知識だけにとどまらず実践につなげるため、子どもから大人まで切れ目のない取り組みを推進していきます。

